

投資家の皆様

第 52 期

## 第 2 四半期事業報告

平成20年4月1日～平成21年3月31日

- 1. 業績等の概要 ..... 1p
- 2. 経営者の問題認識と今後の方針について ..... 2p
- 3. 株式等の状況 ..... 3p
- 4. 中間連結キャッシュ・フロー ..... 3p
- 5. 四半期連結財務諸表等 ..... 4p～5p

## 1. 業績等の概要

### 1 経営成績の分析

当社グループを取り巻く経営環境におきましては、当社が属するコンクリート製品製造業界が依存度の高い公共事業分野については、国並びに地方自治体の厳しい財政状態による公共工事・土木分野の建設投資の従前から引き続き縮減傾向はとどまらず、加えて、セメント、鉄筋等主要原材料の異常な水準での高値での推移や揮発油税の暫定税率失効のブランクによる公共工事発注の減少などさらなる逆風が強まりました。

このような経営環境下で当社は、市場縮減、過当競争下における受注力強化を図るとともに、生産性、採算性の向上に継続的に努め、コスト競争力の強化を図ってまいりました。加えて、昨年からの原油及び原材料価格の異常な暴騰による経営努力の範疇を超えるコストアップ要因に対処するため、製品売価を市場の理解を得て適正価格に是正する努力を継続的に取組んでまいりましたが、価格の是正にはタイムラグがあり高騰した原材料費を吸収するには至りませんでした。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間の業績は、売上高が25億83百万円、経常損失が2億14百万円となり、四半期純損失は2億46百万円となりました。

なお、当社グループの売上高は公共工事関連の比重が高いため季節的変動が著しく、下期(第3、第4四半期連結会計期間)偏重の事業特性を有しております。そのため、売上高に対する費用負担の大きい上期(第1、第2四半期連結会計期間)につきましては、利益面ではマイナスとなりますが、売上高が増加する下期(第3、第4四半期連結会計期間)において利益が伸びる傾向にあります。

### 2 販売実績

品 目		当第2四半期連結会計期間 ・自 平成20年4月1日 ・至 平成20年9月30日 (千円)	前年同期比 (%)
製 品	土木製品	1,221,404	△54.2
	景観製品	21,463	△76.7
	レジンコンクリート製品	96,659	△24.6
	計	1,339,528	△53.6
商 品	土木商品	1,108,429	△44.8
	景観商品	40,709	△31.5
	レジンコンクリート商品	677	△68.8
	計	1,149,816	△44.5
そ の 他 の 事 業		93,697	1,049
合 計		2,583,042	△48.0

## 2. 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の内外の経営環境並びに当社が属する業界の事業環境に配慮しつつ、入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案し、遂行するよう努めておりますが、国、地方財政の厳しさは依然として深刻であり公共事業の縮減傾向は変わらず、又、主要原材料の異常な水準での高止まりなど、今後も厳しい経営環境が続くものと予想されます。このような状況の中、当社グループは、市場縮減、過当競争下における受注力強化、コスト競争力の強化、品質並びに生産性の向上、新商品の開発等による需要の創造等に継続的に取り組み、利益確保に努めてまいり所存であります。

### 1 研究開発の取り組み

当社グループは、社会資本整備に貢献する製品づくりを目指し、「防災」、「循環型社会」、「コスト縮減」、「維持補修」、「CO2削減」等をテーマに製品開発を行っております。

製品開発にあたっては、技術本部 開発・設計部が中心となって商品化を進めております。なお、当期における研究開発費の総額は15百万円であります。

### 2 研究開発のテーマ及び成果

#### ●防災への取り組み

集中的降雨による河川災害の発生を抑制するために、特に都市部に適した一時雨水貯留施設および雨水浸透製品等の開発を推進し、実用化に至っております。また、様々なニーズに対応するため、更なる製品の開発を行っております。

#### ●循環型社会への対応

一般ごみ熔融スラグ細骨材を使用したコンクリート製品について、各地域大学と共同で産学官の調査研究を行い、福岡県、佐賀県、大分県では製造、販売を行っております。また、各地区で新たに排出されるリサイクル資材に対応するため、調査研究を随時行っております。

#### ●コスト縮減への対応

公共工事における構造物構築のコスト縮減を目指し、現場打ち構造物のプレキャスト化による省人省力化及びコンクリート製品構成材の分割化、軽量化、薄肉化を図った製品の開発に取り組んでおります。

#### ●維持補修への取り組み

構造物の既存ストックが一定量に達し、新設から長期使用の時代になり、維持補修への重要性が注目されるなか、これらを配慮した製品、工法の開発、設計に取り組んでおります。

#### ●CO2削減への取り組み

CO2削減の必要性が叫ばれる中、CO2削減に効果がある即脱製品の開発に力を入れております。

### 3. 株式等の状況

#### 1 株式の総数等

##### (1) 株式の総数

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,024,000
優先株式	2,000,000
計	22,024,000

##### (2) 発行済株式

種 類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成20年9月30日)	上場金融商品取引所名 又は 登録認可金融商品取引業協会名
普通株式	5,506,000	ジャスダック 証券取引所
第1回優先株式	2,000,000	非上場
計	7,506,000	—

#### 2 1株当たり情報

当第2四半期連結会計期間末		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1株当たり 純資産額	97円31銭	1株当たり 純資産額	229円94銭
1株当たり 四半期純損失	132円90銭	1株当たり 当期純利益	28円77銭

### 4. 中間連結キャッシュ・フロー

区 分	当第2四半期連結累計期間 ・自 平成20年4月1日 ・至 平成20年9月30日
	金額(千円)
営業活動による キャッシュ・フロー	589,967
投資活動による キャッシュ・フロー	△438,333
財務活動による キャッシュ・フロー	△320,971
現金及び現金同等物 の増減額(減少:△)	△169,336
現金及び現金同等物 の期首残高	797,665
現金及び現金同等物 の四半期末残高	628,328

## 5. 四半期連結財務諸表等

7

## 四半期連結貸借対照表

(単位: 千円)

	平成20年9月30日	平成20年3月31日
(資産の部)		
I 流動資産	6,455,999	7,837,498
II 固定資産	3,364,832	3,185,203
資産合計	9,820,832	11,022,702

(単位: 千円)

	平成20年9月30日	平成20年3月31日
(負債の部)		
I 流動負債	8,154,193	5,074,860
II 固定負債	623,373	4,297,155
負債合計	8,777,567	9,372,015
(純資産の部)		
I 株主資本	1,022,213	1,639,913
II 評価・換算差額等	16,241	10,521
III 少数株主持分	4,809	251
純資産合計	1,043,264	1,650,686
負債純資産合計	9,820,832	11,022,702

## 5. 四半期連結財務諸表等

## 2 四半期連結損益計算書

(単位: 千円)

	自平成20年4月1日 至平成20年9月30日
売上高	4,873,001
売上原価	3,958,497
売上総利益	914,503
販売費及び一般管理費	1,458,113
営業損失	543,610
営業利益	—
営業外収益	43,621
営業外費用	59,019
経常損失	559,007
経常利益	—
特別利益	725
特別損失	16,607
税金等調整前四半期純損失	574,889
税金等調整前四半期純利益	—
法人税、住民税及び事業税	38,114
法人税等調整額	△9,288
少数株主損失	4,893
四半期純損失	598,821
中間(当期)純利益	—